

世話人所感 秋元典子 (2022年3月6日)

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻。ウクライナが何をしたというのか。首都キエフを陥落させゼレンスキー政権を転覆させる、ウクライナを非軍事化させるなど、情報統制を強化し核兵器使用までチラつかせつつ、ロシアの一方的で身勝手な論理をもって他国の領土を軍靴で踏みにじっている。

「戦争だとわかっている。怖い。死にたくない。」大きな目にいっぱい涙を溜めて訴えていた幼い女の子の映像に、胸が締めつけられた。

国際社会はこの事態に対して制裁を始めた。欧州連合 (EU) の各国は、ロシア向けの貨物には港を使用させないと発表した。ロシアの物流が麻痺すれば、ロシアの一般市民の日常生活も直撃されるだろう。為政者の愚行により、侵攻した国もされた国も、両国の一般市民が巻き込まれ、人々の命と暮らしが脅かされる。命と暮らしを守ることを職責とする一人の看護師として、私は激しい憤りを感じずにはいられない。

一方、北京冬季パラリンピックが3月4日に開幕した。今まさに熱戦が繰り広げられている最中である。パラリンピックの原点は、1948年にイギリスの病院で開催されたアーチェリーの競技会だと聞き及んでいる。第二次世界大戦により脊髄損傷となり、下半身が麻痺した元兵士の治療用のスポーツ大会であった。パラリンピックが戦争と密接に関連していた事実は皮肉なことである。その大会の開催地である北京を首都とする中国は、ロシアの軍事侵攻を明確には非難していない。パラリンピックは、人間の多様性を認め合い、自分の持てる力を十分に発揮できる社会の実現を目指すスポーツの世界的祭典である。平和・人権なくしては成り立たない。パラリンピックが掲げる理念とは対極の軍事侵攻。到底相いれないことが併存しているこの現実をどう理解すればいいのか見当も立たない。

日々のニュース報道において、ウクライナの地図が示される。「クリミア半島」という文字が目に入り、フローレンス・ナイチンゲール (Florence Nightingale ; 1820~1910) を想わずにはいられない。

近代看護の祖といわれるナイチンゲールは、1854年に勃発したクリミア戦争 (1854~56年) における負傷兵の死亡率をそれまでの42.7%から2.2%にまで激減させた (系統看護学講座 別巻9 看護史 p.105-106, 医学書院, 東京, 2005.) 人物として広く知られている。ナイチンゲールは、日常の細々とした生活行動の1つひとつを整えることで自然治癒力が十分に発揮できる状態が創り出され、人間の命が守られ、人間の生きる力が強められることを実証した。クリミア戦争の主戦場となったクリミア半島を領土の一部とするウクライナの看護師たちは、今、どのような日々を過ごしているのだろうか。

人々の日常が、暴力によって破壊されることなど絶対にあってはならない。2022年3月6日に開催された看護未来塾世話人会は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に強く抗議する声明文を出す決意し、具体的手続きを確認した。私たちの見解をぜひご一読いただければ幸いです。